

「伊雑宮御田植祭」

のあれこれ

国指定の重要無形民俗文化財「磯部の御神田」はその昔より、千葉県おみたの香取神宮、大阪の住吉大社と共に日本の三大御田植祭の一つに数えられております。

御田植祭の縁起

これは踊込み唄に「昔真名鶴磯部の千田ちだに稲穂落としたそのまつり」とあるように、磯部の「鶴の穂落し」の故事によるものです。遙かその昔より行われているものですが、現在の姿になったのは、平安時代の末頃から鎌倉時代のはじめ頃といわれております。

御田植祭の期日

毎年六月二十四日に行われます。当日は如何なる雨や風が吹いても中止されることはありません。戦時中の空襲の最中においても行われておりました。

御田植祭の奉仕

これは昔から「磯部九郷」と呼ばれていた土地の人々が地区を挙げて奉仕します。一部の地区では二地区が連合し、奉仕を行いますので、七年に一回廻ってきます。その順序は

上之郷 沓掛
五知 山田
下之郷 穴川
迫間 築地
恵利原

地区となっております。

御田植祭の諸役人

太鼓たいこ 一人、鼈かめ 二人、早乙女さおとめ 六人、大鼓おど 一人、小鼓こど 一人、謡うたい 六人、笛ふえ 二人、杵きね 二人、田道人たちど(立人) 六人、警護けいご 一人